

## 新しい住まいの形 コミュニティづくり

～日本版CCRCを考える～



(株)コミュニティネット  
高橋 英 與  
(たかはし・ひでよ)

1948年岩手県花巻市生まれ。設計事務所勤務を経て、機連空間設計を設立、代表取締役就任。コーポラティブハウスづくりを手がける。1987年、株式会社生活科学研究所(現社名:株式会社生活科学運営)を設立し、高齢者住宅や有料老人ホームづくりに携わる。2005年、生活科学運営の経営を若手に移行。2006年、株式会社コミュニティネット代表取締役就任。自立型高齢者向け住宅「ゆいま〜るシリーズ」を展開し、団地再生・過疎地再生、福祉の町づくりをテーマとしたコミュニティづくりを進めている。著書に『街の中の小さな共同体』(中央法規)、『コミュニティ革命〜地域プロデューサーが日本を変える』(彩流社)を8月下旬上梓。他。

第3回 地方移住への取り組み

10月9日、「生涯活躍のまち移住促進センター」が東京八重洲にオープンしました。このセンターでは、誰もが自分らしく、最期まで安心して暮らせる、持続可能な多世代共生の地域づくりに取り組む先進的自治体へ橋渡しをします。さらに、首都圏以外での暮らしを考えている方、共に地域づくりを担いたいと考えている方たちなどの相談に乗る方々を出展している自治体へ橋渡しをします。さらに、

## 移住の焦点は当事者性の尊重

必要な手続きなどきめ細かくサポートすることを目指しています。

同センターの母体は、民間で構成する「生涯活躍のまち推進協議会(代表:社会福祉法人佛子園の雄谷良成理事長)」で、当社も発起人の1人を務めています。

出展する自治体は現時点で厚沢部町(北海道)、南部町(鳥取県)、湯梨浜町(鳥取県)、小竹町(福岡県)の4自治体ですが、今後増える見込みです。

アクティブシニアの「2地域居住」「お試し居住」「移住」を考える上で必要なことは、「人口問題」の観点で捉えないことです。「生きがい再発見」「共に生涯活躍のまちを創る」という当事者性の尊重が原点です。大都市に暮らす住民が

### 介護 B i z

抱える悩みや不安に寄り添い、「気の合う仲間と一緒に自然豊かな場所で暮らしたい」「定年退職後、地域づくりに貢献したい」「自然やエコロジーに興味があり、トレッキング、スキーなどアクティビティを楽しみたい」など、旅行や現地見学会などで現地へ足を運び、住み慣れた場所を離れて、見知らぬ土地への「移住」は容易なことではありません。旅行や現地見学会などで現地へ足を運び、住み慣れた場所を離れて、見知らぬ土地への「移住」は容易なことではありません。旅行や現地見学会などで現地へ足を運び、住み慣れた場所を離れて、見知らぬ土地への「移住」は容易なことではありません。

新しい土地で人生を送ろうとしている方、そして、そうした方々を新しい住民として受け入れる自治体。そんなお互いの幸せな出会いの場になり、ここで始まる小さな試みが、日本を持続可能な社会への導く原動力になることを願っています。

そのために専門の相談員が常駐し、「誰と、どこで、どんな風に暮らしたいのか」「90歳まで生きると仮定した上で資金計画は大丈夫か」「医療や介護の安心、

抱える悩みや不安に寄り添い、「気の合う仲間と一緒に自然豊かな場所で暮らしたい」「定年退職後、地域づくりに貢献したい」「自然やエコロジーに興味があり、トレッキング、スキーなどアクティビティを楽しみたい」など、旅行や現地見学会などで現地へ足を運び、住み慣れた場所を離れて、見知らぬ土地への「移住」は容易なことではありません。旅行や現地見学会などで現地へ足を運び、住み慣れた場所を離れて、見知らぬ土地への「移住」は容易なことではありません。